学校だより　練馬区立大泉学園中学校

発行日　平成２７年１１月３０日（月）１１月号
発行人　校　長　桐野　和之

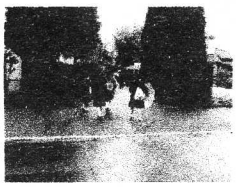
「いじめは決して許されるものでない」

校長　桐野　和之

同じ学校の生徒のいじめが原因と思われる中学生の自殺がありました。

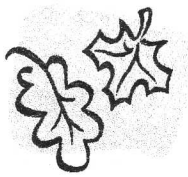
親から大切な命を授かり、一人の大切な存在として、親や親戚、地域や近隣の方々から、そして先生方からも見守られ、いろいろな支援を受け、日々成長していた子どもが、突然自らの命を絶ってしまう。とても残念でなりません。悲痛な思いがします。「命は大切なもの、かけがえのないもの」です。

なぜなら、誰もが生まれながらにして人権をもっているからです。人権とは人としての権利です。私たちは、自分の意志でこの世に生まれてきたわけではありません。しかし、生まれてきた以上、私たちは、必要とされている存在です。なぜなら、世の中に同じ人間はいないのです。だから、いじめられたり、辛い悩みを抱えたりしている人に私は強く言いたい。訴えたい。もしも辛いことや耐えられないことがあったとしても、決して命を失ってはいけない。悩みを一人で抱え込まず、誰かに相談してほしい。そして誰かに自分の気持ちを打ち明けてほしい。人に悩みを話すという事は自分が思っている以上に、心、気持ちを楽にしてくれるものです。また、そうすれば誰かが必ず助けてくれます。いじめも解決に向かうはずです。



学校では、ふざけやからかい、心ない言葉から、暴力やいじめに発展してしまうことがときどき起きます。嫌な言葉や言い方はもの凄く心に突き刺さります。また、人を無視することなども同様です。心や体が疲弊します。

いじめは形に現れるものばかりではありません。周りが見ようとしなければ見えないものもあります。「いじめは決して許されるものではありません。」いじめを発見することや問題意識をもつことは、私たちの人権感覚が問われることです。集団生活の中で力のアンバランスが生じ、力の強いものが優位に立って力を悪用し、いじめられ役が固定化するといじめが進行します。いじめられている子は孤立し、いじめている子たちは歯止めがきかなくなります。そうさせないためには、周りの人間がブレーキをかけなければならないのです。



いじめは、『いじめられている子』、『いじめている子』、そしてその外側に、『いじめている子をはやし立てる子』、『いじめを見ても見ぬふりをする子』の四層構造の中で進行すると言われています。いじめをストップさせる「止めようと言える、仲裁者層」が育っていないと深刻な状況になります。いじめは決して許されるものではありません。「いじめは絶対にNO！」と言える学園中生であってほしいと思います。

読書月間を終えて

大泉学園中学校では今年度、学校図書館支援員の協力を受け、読書啓発活動として「読書月間」を設定し、ブックトークを中心とした本の紹介を行いました。取り組みの中心となり、話題を提供していただいた図書館支援員さんに、読書月間の取り組みについて振り返ってもらいました。また、実際に紹介された本の紹介文も合わせてこの紙面で紹介いたします。

学校図書館支援員　治田　幸恵

大泉図書館から支援に入り、今年で４年目となりました。普段は生徒の貸し出しや書架整理、展示や選書支援などを中心に勤務させていただいています。

大泉学園中学校の生徒は本が好きな生徒が多いのですが、なかなか図書室に足が向かない生徒もいます。

そこで今年度は年間２回、『読書月間』の取組をさせていただきました。第１回は６月１５日から２３日までの７日間。第１回は１１月２日から１１日までの７日間です。

図書館支援員が用意した本の紹介原稿を、昼の放送時に放送委員が読み、支援員が勤務する２日間は支援員が、全校放送でブックトークをするという試みでした。

第１回ではテーマを『学校生活』とし、勉強や友情、部活動などが書かれている本の紹介をしました。第２回ではテーマを『秋』とし、食べ物やスポーツ、芸術などを取り上げ、季節感を出しました。

どちらも生徒たちに楽しんでもらえるように、青少年向け図書から、一般書まで幅広く紹介を行いました。

元々図書に関して活発な学校ですので、昼の放送を聞いて本を見に来る生徒が増えました。また、紹介した図書を読んだ生徒からは「面白かった」という声も聞くことができ、充実した取り組みとなりました。11 月 27 日には図書委員会主催の「本からの挑戦状」もありました。ますます読書推進活動が進むことが期待されます。

まずは、香月(かづき)　美(み)夜(や)/作「本好きの下剋上(げこくじょう)　司書になるためには手段を選んでいられません」です。

大学生の麗乃(うらの)は周りから「本が好きな変人」と呼ばれていました。

なぜなら、トイレでもお風呂でも移動中でも本を読んでいたからです。

文字を目で追っていないと落ち着かないほど、本が好きな麗乃。

もし死ぬのであれば本に埋もれて死にたいと常々(つねづね)考えていましたが、本当に事故で本に埋もれて死んでしまいます。

次に麗乃が目覚めた時、なんと異世界の５歳児マインに生まれ変わっていました。

そして絶望的なことに、この世界では麗乃の大好きな本はほとんど存在しなかったのです。嘆き悲しんだ麗乃は考えます。　「なければ作ればいい」と。

いつの日か麗乃は異世界に図書館を作り、司書となって本に囲まれた生活ができるのでしょうか？その先はぜひ、自分の目で確かめてみてください。

小中一貫教育研究の推進

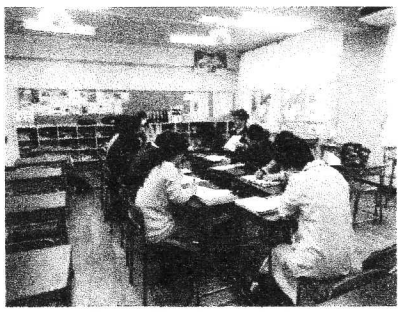
～大泉学園中学校／大泉学園小学校／大泉学園緑小学校～

１１月１７日（火）に校区別協議会が実施されました。これは、練馬区教育委員会より小中一貫教育研究推進グループとして、大泉学園中学校、大泉学園小学校、大泉学園緑小学校の３校がグループの指定を受け、その研究の一環としても実施されているものです。この度の協議会は、大泉学園中学校に大泉学園小学校、大泉学園緑小学校の先生方が集まり、まず、中学校の授業を参観してもらいました。

特に小学校の先生方にとっては、小学校を卒業した子どもたちがどのように成長しているのか確認する機会になります。また、小学校で学んだことが、中学校ではどのように土台となって学習がスパイラルに進められているかを見学する機会にもなります。

さらに、３校の先生方で検討、作成した全教科の課題改善カリキュラムについて、現在、どのようにカリキュラムの取り組みが進んでいるのか、また、小中学校で課題となっている内容は何か。小中学校の教員同士が教科ごとの分科会で情報交換、意見交換等を進めました。

課題改善カリキュラムとは例えば、国語では小中学校の９年間で大事にして育てたい力を、「読書活動を充実させて、読解力を育てる」と考え、共通の目標を掲げます。その目標に向けて、小学校の低学年（１～２年生）では本を読む楽しさに気付く。興味関心のある本を探して読む。中学年（３～４年生）では、目的に応じていろいろな本を読み、文章を引用したり、要約したりする力を高める。高学年（５～６年生）では目的に応じて本を選び、文章の内容を的確におさえて読む。中学校（１～３年生）では幅広いジャンルの本を読みこなす力を育てる。



このように重点目標（育成したい力）を小中学校の先生方が互いに顔を合わせて検討し、小中学校の各教科で互いに力を入れていく共通の目標として考えた内容が各教科の課題改善カリキュラムです。

大泉学園中学校、大泉学園小学校、大泉学園緑小学校の３校では現在、９年間の学習を見通した課題改善カリキュラムに関係する校区別協議会を年間３回（６月、８月、１１月）実施しています。その中で、小中学校の先生方は互いに顔見知りになり、気軽に教科指導の話ができる関係に少しずつなってきています。次年度からは、この研究をベースとして小中一貫教育の実践校に３校の学校が変わる予定です。当然、各教科の課題改善カリキュラムは、子どもたちの現状を把握する中で、毎年、小中学校の先生方の意見や情報交換を通して、見直しや修正、訂正が行われていきます。

大泉学園中学校、大泉学園小学校、大泉学園緑小学校の３校では、今後も先生方が「９年間を見通した授業の創造」を小中一貫教育研究のテーマとして、協議を続けていきます。

地域清掃を振り返って

２学年教諭　酒井　大樹

１１月２０日に大泉学園中学校の地域清掃が実施されました。

今回の地域清掃には２５３名の生徒が参加しました。地域清掃の生徒ボランティアの募集では、例年通り各クラス１０人程度の参加者を予想していましたが、募集をはじめると第１学年７６人、第２学年７４人、第３学年１０３人。多いクラスで３０人を超える生徒が希望したクラスもありました。当日は１４時から雨の予報でしたが、幸いにも天候に恵まれ、PTAの方々のご協力もいただき、無事に地域清掃を行うことが出来ました。

本校の地域清掃は、練馬区のクリーン運動の一環として行われています。参加した生徒達には、地域清掃を始める前に、取り組む気持として、次のことを大切にして取り組むよう話をしました。

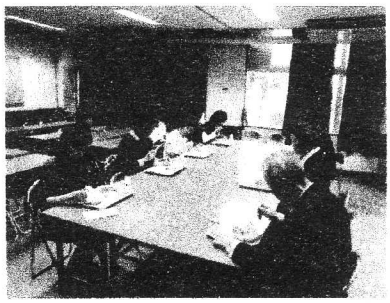
「みなさんは日々、地域の方々に支えられ、見守られながら生活をしています。だから、本日の地域清掃では、日頃お世話になっている地域の方々への感謝の気持を込めて、自分たちが暮らしているこの地域をよりキレイにするように努めましょう。」

地域清掃という奉仕活動を通じて、子どもたちが地域社会の一員としての自覚を高め、少しでも自分の町の環境美化について考えられるようになれば、今回の活動は意義深いことであったと思います。私自身は教員として初めて取り仕切った学校行事を終えて、心からホッとした気持ちでいっぱいでした。

第２回　学校評議員会

副校長　今本　由美子

１１月２０日（金）、第２回学校評議員会を開催しました。校長あいさつの後、各学年の教員から、授業や生活の様子などについてお話をさせていただき、評議員の方から、質問やご意見をいただくといった形で進められました。



今回は、学習についての話題が多くあげられましたが、特に、家庭学習の習慣を身につけるための取り組みや、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていくための取り組みについて、意見交換が行われました。また、*大泉学園小学校、大泉学園緑小学校と研究グループとして進めてきた小中一貫教育研究*についても、その取り組み内容や成果・課題等についてお話をさせていただき、ご意見を伺いました。途中、評議員の皆さんご自身の中学生の頃のことや、お子さんが中学生だった頃のことなども話題にのぼり、和やかな雰囲気の中、評議員会は進みました。

授業参観の後、給食をご試食いただきました。自校給食（学校で調理し、提供する方式）を実施するために給食室の増築工事をしていたころ、お子さんが中学生だったという評議員の方もおり、当時の苦労話などを伺いました。毎日、当たり前のように提供されている学校給食ですが、もっと感謝の気持ちをもっていただかなければならないと感じました。